

秘

海軍公報

第四九八九號

海軍大臣官房

昭和二十年四月十九日(木)

○令 達

内令第三二一號

佐世保鎮守府豫備海防艦

海防艦 探 捉

海防艦 笠 戸

舞鶴鎮守府豫備海防艦

海防艦 占 守

海防艦 國 後

海防艦 八 丈

右警備海防艦卜定メラル

舞鶴鎮守府警備敷設艇

敷設艇 成 生

右役務ヲ解カル

昭和二十年四月十日

海軍大臣

内令第三二二號

横須賀鎮守府在籍

驅逐艦 野 風

吳鎮守府在籍

驅逐艦 檜

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

伊號第三百六十二潛水艦

佐世保鎮守府在籍

伊號第三百六十八潛水艦

伊號第三百七十潛水艦

伊號第三百七十一潛水艦

舞鶴鎮守府在籍

呂號第四十三潛水艦

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

砲 艦 唐 津

右帝國砲艦籍ヨリ除カル

吳鎮守府在籍

第五十三號海防艦

第四百四十四號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 昭 南

海防艦 屋 久

舞鶴鎮守府在籍

第九號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

秘海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

四二一

1719

| | | | | |
|---|--|---|---|--|
| <p>右帝國輸送艦籍ヨリ除カル 舞鶴鎮守府在籍 敷設艇 成 生 第百十四號輸送艦</p> | <p>右帝國敷設艇籍ヨリ除カル 横須賀鎮守府在籍 特務艦 知 床</p> | <p>右帝國特務艦籍ヨリ除カル 昭和二十年四月十日 海軍大臣</p> | <p>内令第三一三號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年四月十日 海軍大臣 佐伯防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 下關防備隊 第六十七號(横) 第七十七號(横) 第二百四十六號(阪)</p> | <p>第一南遣艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十七號(横)」及「第二百四十六號(阪)」ヲ削リ魚雷艇ノ欄「自第四百三號(佐)至第四百八號(佐)」ニ改ム 「自第四百三號(佐)至第四百八號(佐)」</p> |
| <p>馬公方面特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 上海方面 根據地隊 第二百二十號(吳) 第二百四十號(阪)</p> | <p>第二十五根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二號(吳)」ヲ、魚雷艇ノ欄「第九號(横)」ヲ削ル 第二十七特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十號(横)」ヲ削ル 第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十號(吳)」及「第二百四十號(阪)」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)</p> | <p>内令第三一四號 第二百二號驅潛特務艇 右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 第九號魚雷艇 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 第四百六號魚雷艇 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 昭和二十年四月十日 海軍大臣</p> | <p>内令第三一五號 特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年四月十日</p> | |

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「第五福丸」、「勝榮丸」、「第三朝洋丸」、「第二十八南進丸、第三十五南進丸」、「高貴丸」、「富士丸」、「第五盛進丸、」及「第三三徳丸、」ヲ削ル
第二監視艇隊ノ項中「第三資松丸、」及「第五萬榮丸、」ヲ削ル
第三監視艇隊ノ項中「第五寶榮丸、」、「第三十六南進丸、」、「第十七長進丸、」、「榮福丸、」、「第三號昭和丸、第八事代丸、」、「第三共和丸、」及「第二榮福丸、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第三一六號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「通海丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第五盛秋丸(横)」ヲ削ル
伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「和風丸(横)」ヲ削ル
佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「長門丸(佐)、鳥來丸(佐)」及「龍井丸(佐)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第三南陸丸(佐)」及「第五大成丸(佐)」ヲ削ル
大島防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「柏丸(佐)」ヲ削ル
第二南道艦隊ノ項ヲ削ル

第十二特別根據地隊ノ項ヲ削ル

第二十三特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「肥後丸(佐)」及「鶴丸(佐)、大鷹丸(佐)」ヲ削ル
第二十六特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「圖南丸(吳)、第二號海玉丸(吳)、第三號海玉丸(吳)」ヲ削ル
第二十八根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「島根丸(吳)、立山丸(吳)、白山丸(吳)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八〇二九頁参照)

内令第三一七號

汽船 柏丸
同 淡江丸
同 春川丸
同 和風丸
同 通海丸
同 海王丸
同 海王丸
同 海王丸
同 立山丸
同 島根丸

右特設捕獲網艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

秘海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

四一三

| | | | |
|----------------------------|---|----|---|
| 右特設驅潛艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 同 | 白 | 丸 |
| 同 | 同 | 圖 | 丸 |
| 同 | 同 | 鳥 | 丸 |
| 同 | 同 | 鶴 | 丸 |
| 同 | 同 | 大 | 丸 |
| 同 | 同 | 長 | 丸 |
| 同 | 同 | 肥 | 丸 |
| 同 | 同 | 龍 | 丸 |
| 右特設驅潛艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 同 | 第一 | 丸 |
| 同 | 同 | 麗 | 丸 |
| 右特設掃海艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 漁 | 榮 | 丸 |
| 同 | 同 | 第二 | 丸 |
| 同 | 同 | 第三 | 丸 |
| 同 | 同 | 高 | 丸 |
| 同 | 同 | 第八 | 丸 |
| 同 | 同 | 第二 | 丸 |
| 同 | 同 | 第三 | 丸 |
| 同 | 同 | 勝 | 丸 |
| 同 | 同 | 第五 | 丸 |
| 同 | 同 | 第五 | 丸 |
| 同 | 同 | 第五 | 丸 |

| | | | |
|---------------------------------|---|------|---|
| 右特設監視艇トシ橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 同 | 第三 | 丸 |
| 同 | 同 | 第十七 | 丸 |
| 同 | 同 | 第二十八 | 丸 |
| 同 | 同 | 第三十五 | 丸 |
| 同 | 同 | 第三十六 | 丸 |
| 同 | 同 | 富 | 丸 |
| 同 | 同 | 第五 | 丸 |
| 同 | 同 | 第五 | 丸 |
| 同 | 同 | 第三 | 丸 |
| 同 | 同 | 第五 | 丸 |
| 右特設監視艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 汽 | 丸 | |
| 右特設運送船(雜用船)トシ橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 同 | 重 | 丸 |
| 右特設運送船(給油船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク | 同 | 興 | 丸 |

昭和二十年四月十日

海軍大臣

○ 通 牒

官房艦機密第九八六號

昭和二十年四月六日

海軍省 副官

各領守府 參謀長
各警備府 參謀長
海軍艦政本部 長

諸公試諸試驗一部省略實施要領廢止ノ件通知

昭和十九年三月八日官房艦機密第一四五二號ハ之ヲ廢止セラレ候

軍務三機密第二九一號

昭和二十年四月十六日

海軍省 軍務局長

海軍省 教育局長
海軍省 經理局長
海軍省 航政本部長
海軍省 艦政本部長
海軍省 施設本部長
海軍省 警備府 參謀長
海軍省 警備府 監理長
海軍省 警備府 監理長
海軍省 警備府 監理長
海軍省 警備府 監理長

空襲被災中小工場ノ應急復舊ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ今般別紙寫ノ通知有之候處臨時生産防衛對策中央本部ニ於ケル工場事業場ノ應急復舊ノ一般の方針ニ關スル

關係各省間ノ申合(四月九日附軍務三機密第二四六號四月十三日祕海軍公報第四九八三號掲載參照)ノ趣旨ニ則リ各地方長官共ノ他關係各機關ト協力シ首題措置實施ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度

(別紙寫)

防業二〇發第五九號

昭和二十年三月二十九日

防空總木部次長

各都廳府縣長官殿

空襲被災中小工場ノ應急復舊ニ關スル件

空襲ニ因ル工場事業場ノ應急復舊等ニ關シテハ關係地方官廳ト連繫協力シ夫々迅速適切ナル指導ヲ加ヘラレツツアル處最近ノ空襲ニ依リ相當多數ノ工場事業場ニ被害發生シ企業再整備等ノ措置及工場事業場ノ分散疎開計畫トノ關聯モアリ去就ニ迷ヒ生産ヲ阻害シツツアル狀況ニ有之候ニ付中小工場(防空法施行令第十六條ノ四ノ規定ニ依ル各省大臣ノ指定工場ヲ除ク)ノ應急復舊(轉活用)ニ關シテハ概ネ左記ニ依リ貴官ニ於テ關係地方行政協議會長、軍需監理部長等ト連絡ノ上迅速強力ニ復舊轉活用ノ方途ヲ講ジ以テ戰時生産ノ維持ニ關シ格段ノ御努力相成度此段及通牒候也

追而本件ニ關シテハ軍需省トモ協議濟ニ有之中添候

記

一 空襲被害後速ナル時機ニ陸海軍、軍需監理部等地方關係官

祕海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

四一五

1723

應關係官、被害工場事業場代表者ヲ以テ復舊對策打合せヲ催シ復舊ノ可否順位資材勞務ノ斡旋等ニ付具體的ニ決定實施スルコト

二 全壊焼又ハ半壊焼ノ工場事業場ニ付テハ別紙軍需省臨時生産對策中央本部決定方針ニ依リ復舊ノ適否ヲ定ムルコト、但シ航空機、航空燃料、兵器又ハ其ノ部分品等ヲ生産シ又ハ其ノ生産ニ轉換シ得ル工場事業場ニ付テハ相當ノ被害ヲ蒙リタルニモ抱ラズ復興ノ熱意旺盛ニシテ原材料ノ手當、輸送關係等ヲ考慮シ適當ナル親工場ヘノ吸叫又ハ協力工場トシテ斡旋復舊セシムルコト

三 工場、事業場ノ復舊轉活用ニ當リテハ極力分散的ニストル共ニ防空的整備ヲ充分考慮セシムルコト

四 分散移設セントスル場合ニ於テハ極力地下又ハ林間ニ分散若クハ堅牢建物ニ依ラシムルコト、シ軍事上ノ重要防衛地域ヲ避ケシムルコト

(別紙)

昭和二十年三月二十三日

臨時生産防衛對策中央本部

空襲被害工場ノ復舊方針

- 一 空襲ニ依ル被害工場ニ對シテハ現場復舊ヲ絕對ニ必要トスルモノニシテ復舊容易ナルモノニ限リ復舊ヲ認ムルコト
- 二 生産ノ重要度特ニ高キモノニシテ現狀復舊困難ナルモノニ付テハ至急生産轉移ヲ實施スルコト、生産轉移困難ナルモノ

ニ付キテハ中央ニ於テ再建ヲ計畫スルニ付キ至急連絡スルコト

三 現場復舊ノ極メテ容易ナル工場ニシテ復舊資材僅少ナルモノハ現場ニ於テ復舊スルコト

四 燒失工場ノ勞務者、機械等ハ取敢ヘズ關係工場、同種工場ニ移轉收容スルコト

尙使用可能ナル機械類ハ堅牢建築物等ニ取敢ヘズ努メテ收容保管ノ上他ニ轉用スル等ノ方途ヲ併セ講ズルコト

五 現狀ニ於テ復舊スル場合ニ於テハ燃料、電力等ニ關シ關係官廳ニ於テ斡旋スルコト尙必要ニ應ジ堅牢建築物ニ收容スル等ノ方途ヲ講ズルコト

軍務三機密第二九三號

昭和二十年四月十六日

海軍省軍務局長

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 |
| 總務部長 | 經理部長 | 醫務部長 | 教育局長 | 航空部長 | 軍械部長 | 軍醫部長 | 軍需部長 | 軍務部長 | 參謀長 | 監理長 | 監督官 | 首席監督官 | 海軍監督長 |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

海軍省軍務局長

首題ノ件ニ關シ今般關係各省間ニ於テ別紙ノ通申合決定近ク軍需省企業整備本部長ヨリ各地方長官宛正式通牒ノ豫定ニ有之候條左記事項留意ノ上指導相成度

記

- 一 本措置ハ從來ノ回收機關ヲ經由スル間接轉用方式ニ依ルノ外緊急利用ニ應ジ地方長官ノ認定ニ依リ當事者間ニ於テ直接轉用シ得ルガ如ク簡素化スル等迅速處理ヲ旨トセルモノナリ
- 二 本要領中地方長官トハ對象物件所在地ノ所管地方長官ヲ謂フ
- 三 海軍關係ノ轉用要領ハ各海軍監督長(首席監督官)ノ證明書(直接授受ノ場合ハ緊急需要證明書及當事者相互間ノ讓渡(受)同意書)ヲ附シ提出セシムルコト
- 四 國民更生金庫ト產業設備營團トノ取扱區別ハ戰災等ニ依リ事業主ガ其ノ業ヲ廢止スルニ至リタル場合ヲ前者右以外ハ後者トス
- 五 本要領ノ取扱ハ客年四月九日附兵備二機密第七八八號並ニ五月三日附兵備二機密第九四〇號ニ依ル現行物件轉用方式ニ準ズルモノトス
- 六 本件實施ニ際シ本年三月二十四日附軍務三三七號被爆ニ依ル燒失地域内屑鐵等處理ニ關スル件トノ關聯ヲ考慮轉用物件ノ戰力化促進ニ關シ特段ノ措置ヲ講ズルコト

(別紙)

空襲等ノ災害ニ伴フ產業設備ノ買受等ニ關スル件

一 空襲、震災等ノ災害ニ因ル罹災工場事業場ニシテ復舊(疎開復舊ヲ含ム)セザルモノト決定セラレタルモノニ屬スル產業設備ハ原則トシテ所有者ノ申出ニ應ジ產業設備營團(以下營團ト稱ス)之ヲ買受クルコト

二 前號ノ產業設備トハ

- (一) 機械、器具、工具、備品其ノ他ノ事業用品ニシテ原則トシテ金屬ヲ主タル材料トスルモノヲ謂フコト但シ所有者ニ於テ處分困難ナルモノ等已ムヲ得ザルモノニ付テハ金屬ヲ主タル材料トセザルモノシモ含ムコト
- (二) 屑化シタルモノ(昭和十九年十二月十六日附企作第四七五號企業整備本部長通牒ニ依ルモノヲ謂ヒ大修理ヲ爲スニ非ザレバ原用途ニ使用シ得ザルモノヲ含ム)及國民更生金庫(以下金庫ト稱ス)ニ於テ買受クベキモノ(昭和十八年十月十二日附一八企第七八四號商工省企業局長通牒及昭和十九年七月十二日附一九總局第三二四五號農商省總務局長通牒參照)ヲ除クコト
- 右ノ屑化シタルモノト然ラザルモノトノ認定ハ當該設備所在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フコト
- 三 地方長官ハ營團又ハ金庫ガ本件ニ依リ買受クベキ產業設備(屑化シタルモノ及金屬ヲ主タル材料トセザルモノヲ除ク)ニシテ未ダ讓渡移動ノ制限無キモノニ付テハ昭和十九年軍需省告示第三百五十二號ニ共キ遊休又ハ不要不急ノ設備又ハ機器トシテ認定ヲ行フコト

前項ニ依リ認定シタル産業設備ニ付地方長官必要アリト認めタルトキハ第一號ノ申出ヲ俟タズ所有者ニ對シ營團又ハ金庫ニ對スル讓渡ノ申込ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得ルコト
(金屬類回收令施行規則第九條參照)

四 營團ニ於テ買受クル産業設備ノ評價ハ「産業設備營團買受産業設備ノ評價方法基準(一般)」(特別基準ノ設定アルモノニ付テハ該特別基準)ヲ適用スルモノトシ當該設備ニ類似スル設備ニ付特別基準ノ設定アル場合ニ於テハ之ヲ準用スルコト但シ所有者及其ノ同業者ノ分擔割合ハ之ヲ容トス

五 營團ハ前號ノ評價ニ際シ戰時災害保險ニ加入セル設備ニ付テハ支拂保險金額ニ應ジ評價額ヲ斟酌スル等簡易機宜ノ措置ヲ講ズルコト尙全損ニ近キ損害ヲ被リタルモノニ付テハ保險會社ヨリ保險金額ヲ支拂フト共ニ保險ノ目的ヲ保險會社ニ交付セシムル便法ヲ採リ得ルコト

六 本件ノ取扱ニ付テハ迅速ニ處理シ特ニ對價ノ支拂ニ付テハ相當額ヲ速ニ概算拂スル様措置スルト共ニ罹災者ノ感情ヲ刺戟スルガ如キコトナキ様特ニ注意スルコト

七 回收機關(營團、金庫及金屬回收統制株式會社ヲ謂フ以下同ジ)ニ於テ買受ケタル産業設備中轉用シ得ルモノ(素材トシテ使用スルモノヲ除ク)ニ付テハ地方長官ニ於テ轉用先ヲ決定シ當該回收機關ニ對シ指示スルコト但シ地方長官ニ於テ特ニ必要アリト認めタル場合ニ於テハ回收機關ニ供出スルコト無ク地方長官ノ發行スル轉用證明書ニ依リ當事者間ノ直接

接受ヲ爲シ得ルコト

回收機關ニ對スル轉用指示及轉用證明書發行ノ方式ニ付テハ地方轉用措置ニ關スル現行ノ例ニ依ルコト

○ 雜 款

○ 本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九九〇號

昭和二十年四月二十日(金) 海軍大臣官房

〇令 達

内令第三一九號

第九十號哨戒特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

昭和二十年四月十一日

海軍大臣

内令第三二〇號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十一日

海軍大臣

第三監視艇隊ノ項中「海晃丸」ノ上ニ「第九十號哨戒特務艇」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第三二二號

舞鶴鎮守府警備潜水艦

呂號第六十二潜水艦

右練習兼警備潜水艦ト定メラル

昭和二十年四月十二日

海軍大臣

内令第三二三號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十二日

海軍大臣

第三十三潜水隊ノ項中「伊號第二百一」ノ下ニ「呂號第六十二」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第三二三號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

舞鶴鎮守府在籍

第五百十八號海防艦

第五百十八號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月十三日

海軍大臣

官房軍機密第四〇五號

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

秘海軍公報 第四九九〇號 昭和二十年四月二十日

四一九

1727

靖國神社臨時大祭ニ代表者参列ノ件訓令
 今般舉行ノ靖國神社臨時大祭ニ際シ合祀者所管各部代表者トシ
 テ招魂式及大祭ノ儀ニ参列ノ爲左記ニ依リ部下高等武官一名派
 遣方取計フベシ

記

- 一 代表者ハ四月二十四日午後五時迄ニ靖國神社境内記念殿ニ
 出頭所要ノ指示ヲ受ケ同二十五日式終了後退京ス
- 二 代表者ハ成ルベク支那事變竝ニ大東亞戰爭ニ直接關與セル
 モノヨリ之ヲ選出ス
- 三 服裝 第一種軍裝(長劔又ハ軍刀)略綬
- 四 所要旅費ハ臨時軍事費、臨時軍事費、雜給及雜費、出張旅
 費支辨トシ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房需機密第一二七號
 當分ノ開潜水艦ニ於テ甲板上下ノ職務ニ従事スルトキ貸與スル防
 水作業服及護謨長靴ハ必要ニ應ジ航空夏衣袴、航空夏帽及半長
 靴ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

○通牒

官房軍機密第四〇六號
 昭和二十年四月十九日

在京各廳長殿
 靖國神社臨時大祭及例大祭ニ關スル件通牒
 今般靖國神社臨時大祭及例大祭舉行相成候ニ付テハ在京諸官ノ
 参列ハ左記ニ依ル義トシ了知相成度

記

| 月 日 | 参 列 者 | 服 装 | 参 著 時 刻 |
|-------------------|--|-------------------------|--------------------------------------|
| 四月二十四日 (招魂式當日) | 一 合祀者所管各部ノ 代表者 一 在京ノ各官衙、學 校及部隊ヨリ代表者 一名(高等武官) | 第一種軍裝 (長劔又ハ軍 刀)略綬 | 午後六時二十 分迄ニ拜殿ニ 参著 |
| 四月二十五日 (臨時大祭) | 一 海軍大臣 一 合祀者所管各部ノ 代表者 一 在京ノ各官衙、學 校及部隊ヨリ代表者 一名(高等武官) | 同 | 午前八時三十 分迄ニ拜殿ニ 参著(午前九 時勅使参向) |
| 四月三十日 (例大祭) | 一 海軍大臣 一 在京ノ各官衙、學 校及部隊ヨリ代表者 一名(高等武官) | 同 | 午前八時三十 分迄ニ拜殿ニ 参著(午前九 時勅使参向) |

官房軍機密第四〇〇號
 昭和二十年四月十九日

| | | |
|---|---|---------------|
| <p>各廳長殿 海軍省副官</p> <p>南西諸島(大島以南)並ニ臺灣派遣海軍部隊 ニ對シ軍事郵便取扱開始ノ件通牒 首題ノ件四月十日ヨリ實施セラレ候 追テ該部隊ニ對スル郵便物ノ名宛記載方及地區別符號等別途 指定セラルベク候</p> <p>軍務一機密第二八五號 昭和二十年四月十九日</p> <p>海軍省軍務局長 海軍省軍需局長</p> | <p>關係各廳長殿</p> <p>自動車用燃料供給區分ニ關スル件申進 四月一日以降各部自動車ハ特定ノモノヲ除キ總テ航空兵器トシ テ取扱ハルル豫定ノ處之ガ燃料ハ兵器ト兵器以外ノ特殊車輛ト ヲ問ハズ從來通部隊用ニ對シテハ兵備品ヲ、其ノ他ニ對シテハ 通常物品ヲ供給セラルル義ト了知相成度 尙代燃車ニ對スル燃料モ右ニ準ジ處理相成度</p> <p>經物第一三號 昭和二十年四月十七日</p> <p>海軍省經理局長</p> | <p>關係各廳長殿</p> |
| <p>前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件通知 昭和十七年經物第一三五號第一第四項ニ依ル首題ノ件別紙ノ通 ニ有之候 (別紙ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)</p> | <p>○雜款</p> <p>○本日軍機秘海軍公報第一一六號(乙配付)發行セリ 配付先 關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、 吳海軍工廠、關係各學校</p> | |

秘海軍公報 第四九九〇號 昭和二十年四月二十日

(經物第一三號別紙)

(昭和二十年四月二十日海軍公報)

| 會社名 | 所在地 | 會社名 | 所在地 |
|-------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 淺田鐵工鑄造株式會社 | 金澤市竹田町七 | 德永硝子株式會社 | 大阪市北區與力町二ノ一八 |
| 朝日電機精工株式會社 | 大阪市西淀川區野里町三三二 | 東京理機工業株式會社 | 東京都蒲田區西之郷二ノ三七 |
| 尼崎金屬工業株式會社 | 尼崎市長洲字長江二五 | 東亞機械製造株式會社 | 京都市下京區東九條河邊町三 |
| 青森航空機株式會社 | 青森市大字米町一四 | 靜岡縣志太郡澁津町六二〇ノ一 | |
| 旭成製靴株式會社 | 東京都日本橋區小舟町一ノ二 (十番ビル) | 東京都京橋區木挽町一ノ八 | |
| 五十嵐喜久太郎(五十嵐鐵工所) | 東京都東區大島町五ノ一 | 姫路市神田町三ノ一 | |
| 株式會社五十嵐製作所 | 東京都大森區雪ヶ谷町二二五 | 合名會社中野兄弟鐵工所 | 大阪市東區今福中一ノ二八二 |
| 株式會社一三六商行 | 八王子市旭町一七 | 中川鑛業株式會社 | 京都市西區大門區竹添町三ノ一八五 |
| 上杉重工業株式會社 | 橫濱市保土ヶ谷區岩間町一ノ六〇 | 何屋木建築工業株式會社 | 京都府何屋郡綾部町字青野小字宮前三ノ一 |
| 遠藤友之(關西航機工作所) | 大阪市東區猪飼野町一五二四 | 日本商輪株式會社 | 大阪市大正區北泉尼町三ノ一六 |
| 株式會社大阪電機製作所 | 大阪市淀川區佃町一四九〇 | 日本特殊消化劑製造株式會社 | 東京都豊島區西果鴨一ノ三五二〇 |
| 尾西鐵保(尾西食品研究所) | 大阪市東區新高南通二ノ九 | 西代鐵工工業株式會社 | 東京都深川區扇橋一ノ二二 |
| 尾西喜一(日本精密チヤツク研究所) | 大阪市西區鶴見橋北通六ノ一 | 四代鐵工工業株式會社 | 神戶市須磨區御尾敷通四ノ二 |
| 株式會社海神機械製作所 | 船橋市海神町三ノ一〇八九 | 日本自動精機株式會社 | 東京都蒲田區雁谷町三ノ八八一 |
| 神谷酒造株式會社 | 東京都本所區吾妻橋三ノ一三ノ六 | 日本電磁工業株式會社 | 神戶市須磨區外濱町二ノ一 |
| 金井重工業株式會社 | 尼崎市東大島字川田一三五 | 日東動力工業株式會社 | 大阪市西淀川區佃町八六五 |
| 關東特殊鍛鋼株式會社 | 大阪府中河內郡龍華町太子堂六三〇 | 日本電氣自衛軍製造株式會社 | 尼崎市水堂五九三 |
| 鹿兒島木材工業株式會社 | 鹿兒島市下荒田町五八 | 日本造船製鋼株式會社 | 福山市西町甲八三二ノ一 |
| カルピス製造株式會社 | 東京都澁谷區向山町六二 | 日本海難救助株式會社 | 東京都麹町區丸之内一ノ六ノ一 |
| 火工品製造合資會社 | 川口市大字前田一〇一五 | 株式會社新居濱工作所 | 新居濱市新須賀甲六四八 |
| 片上耐火煉瓦合資會社 | 大阪市浪速區稻荷町一ノ一〇〇一 | 株式會社日本油燭製作所 | 大阪市北區太藏寺町二三 |
| 合資會社勝山電化工業所 | 福井縣大野郡越前村字比島 | 日東商工株式會社 | 慶尚南道釜山府大倉町二ノ一三 |
| 關南重工業株式會社 | 京都市中區區壬生森町三〇 | 花見丈夫(花見製作所) | 東京都蒲田區南六郷一ノ二二 |
| 加藤物産株式會社 | 神戶市神戶區北長狹通三ノ六二番 屋敷 | 服部冶金工業株式會社 | 大阪市浪速區東神田町八六六 |
| 關西航機工作所 | 大阪市東區成區猪飼野町一五二四 | 長谷川航機株式會社 | 東京都淺草區壽町三ノ六 |
| 黒川直吉(黒川製作所) | 東京都蒲田區矢口町五一九 | 株式會社橋崎製作所 | 大阪市東區今福中一ノ一九四 |
| 吳軍需印刷株式會社 | 吳市下中町一四 | 平松吉太郎(平松鑛業所) | 京都市中區本町五ノ八一 |
| 國策バルブ工業株式會社 | 東京都日本橋區富澤町八 | 光精工株式會社 | 京都市東區山科東野狐敷町二〇 |
| 合資會社小針工作所 | 東京都京橋區西八丁堀四ノ二ノ一 | 光精工株式會社 | 大阪市東區西町四三三 |
| 五光機械工業株式會社 | 名古屋市瑞穂區熱田東町内濱二五 | 福島重工業株式會社 | 福島縣信天郡杉並女村大字黒岩字 神田 |
| 甲陽金屬工業株式會社 | 西宮市今津浦風町九五 | 株式會社富岡製作所 | 東京都北多摩郡三鷹町上連雀一五 |
| 興亞(アリンゴ)工業株式會社 | 兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾字四開五 三ノ三 | 藤田實(藤田製作所) | 東京都深川區平井町三ノ二 |
| 五福電機工業株式會社 | 東京都神田區美土代町三 | 株式會社(藤田製作所) | 東京都京橋區木挽町一ノ一〇 |
| 株式會社三共製作所 | 東京都芝區田村町二ノ五ノ四 | 古谷重工業株式會社 | 大阪市東區本町四ノ一五 |
| 合名會社佐伯商店 | 廣島市舟入川口町四一四 | 株式會社双葉製作所 | 東京都京橋區銀座四六ノ一 |
| 三機航空工業株式會社 | 鹿兒島市原良町一五三四 | 報國工業株式會社 | 東京都京橋區寶町二ノ五 |
| 合資會社札幌工作機械製作所 | 北海道札幌郡白石村大字上白石村 一五九 | 丸福工業株式會社 | 東京都日本橋區馬喰町一ノ一 |
| 住友工業學校 | 大阪市港區魁町一ノ二三 | 松本精治郎(松本醫科機 械製作所) | 大阪市東區淺路町二ノ三三 |
| 昭和工機株式會社 | 名古屋市瑞穂區二野町三ノ一六 | 有限會社みつほ自動車製 作所 | 名古屋市中區玉船町二ノ一 |
| 昭和機械工業株式會社 | 川崎市港町八 | 新瀨縣要浦原郡地蔵堂町大字大武 新田一三六 | |
| 株式會社關機製作所 | 東京都東區南砂町一ノ二八四 | 水倉木工合資會社 | 大阪市西淀川區御幣島町一五七 |
| 世界長工業株式會社 | 大阪市大淀區豐崎西通二ノ七 | 明治機械工業株式會社 | 東京都南多摩郡南村金森一ノ六一 |
| 大日本産業株式會社 | 海南島海口市保勝沙路一八號 | 明光兵器有限會社 | 大阪市西區南堀江通一ノ五二二 |
| 有限會社大飛行機工業 | 釜山府水昌町二〇 | 大和金屬粉工業株式會社 | 大阪市西區南堀江通一ノ四四 |
| 株式會社玉本工場 | 東京都蒲田區羽田本町七〇四 | 山田護謨株式會社 | 東京都大森區大森三ノ四五 |
| 竹井機械工業株式會社 | 金澤市中村町六ノ六 | ヤマトゴム化工株式會社 | 東京都足立區千住東町六九 |
| 高橋德藏 | 徳山市大字徳山六二〇八 | 八洲精工株式會社 | 大阪市西區江戶堀南通四ノ一四 |
| 中央木精木管株式會社 | 川崎市藤崎町二ノ六六 | 株式會社山九組 | 徳山市大字徳山三二二六ノ一 |
| 株式會社堤製作所 | 大阪市西淀川區野里町二三二 | 山口末松(山口鐵工所) | 大牟田市大字草木一三三九 |
| 東亞精機株式會社 | 大阪市港區市場通二ノ一 | 矢口工業株式會社 | 東京都麹町區紀尾井町三 |
| 東亞鍛工株式會社 | 大阪市東區今津町一三七〇 | 吉田熔接造機株式會社 | 東京都芝區田町三ノ一五 |

秘

海軍公報 第四九九一號

昭和二十年四月二十一日(土)
海軍大臣官房

○令 達

内令兵第一四號
左ノ通兵器ニ採用ス

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

| 兵器名稱 | 記 |
|-----------------|---|
| 三式二五番一型 八號爆彈 | 航本機密第三六八一號通標ニ依リ九八式二五番陸用爆彈一型ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ 同右ノ彈底發火裝置裝着可能ナラシメタルモノ |
| 同 右一型改一 | 航本機密第一一九六三號通標ニ依リ九八式二五番通常爆彈一型改一ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ |
| 三式二五番八號通常爆彈 | 航本機密第一〇一五三號通標ニ依リ八〇番八號爆彈ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ |
| 三式八〇番一型 八號爆彈 | 航本機密第一一五五二號通標ニ依リ八〇番三式八〇番八號通常爆彈ヲ反跳爆撃用ニ改造セルモノ |

内令兵第一五號

昭和十七年内令兵第二六號中左ノ通改正シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

第一號中火星發動機二五型ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

| | | |
|-----------------|-----------|-------------------------------|
| 同 火星發動機 二五甲型 | 昭和二十年四月一日 | 火星發動機二五型ニ高壓油ポンプ五型ヲ裝備可能ノ如クセルモノ |
|-----------------|-----------|-------------------------------|

(参照) 昭和十七年内令兵第二六號ハ航空發動機名稱ノ件ナリ

内令兵第一六號
譽發動機一二型及二二型ヲ兵器ニ採用シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

内令兵第一七號

昭和十七年内令兵第二六號中左ノ通改正シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

第一號中譽發動機一二型ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

| | | |
|---------------|-----------|--|
| 同 譽發動機 一二型 | 昭和二十年四月一日 | 譽發動機一二型ノ高度性能ヲ向上セルモノ |
| 同 譽發動機 二二型 | 昭和二十年四月二日 | 十五試ル譽發動機改一〇(NR9II)ト稱シタルモノ(但譽發動機一二型性能ニ制限使用) |

(参照) 昭和十七年内令兵第二六號ハ航空發動機名稱ノ件ナリ

秘海軍公報 第四九九一號 昭和二十年四月二十一日

四二三

1731

内令兵第一八號
火星發動機二五甲型ヲ兵器ニ採用シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和二十年四月十九日

海軍大臣

官房需機密第一二八號

海軍需部長ハ大東亞戰爭中艦營需品經理規程第三條ノ規定ニ拘ラズ主計長主管艦營需品兵器ヲ海軍學校在籍ノ下士官及兵ニ供給スルコトヲ得
之ヲ整理手續ニ關シテハ海軍省需局長ヲシテ通牒セシム
昭和二十年四月十九日

海軍大臣

○通牒

軍需機密第二七九號

昭和二十年四月十九日

海軍省需局長

關係各廳長殿

各海軍學校在籍下士官及兵ニ兵食器供給ニ關スル件通牒

官房需機密第一二八號ヲ以テ訓令相成候首題物品ノ整理ニ關シテハ昭和十九年軍需機密第三一四號通牒ヲ準用ノ上處理相成

度

○試驗問題發送
高等科 經理衛 特技章付與第二回銓衡試驗問題
衣糧衛
普通科 經理衛 特技章付與第五回銓衡試驗問題
衣糧衛
右四月十日左記ノ通發送濟ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ本校へ至急通知相成度
記

○雜款

- 一 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、警備府宛送付
 - 二 單獨施行豫定(艦船、戰地陸上部隊)所轄ニハ直送
 - 三 豫備トシテ單獨施行用試驗問題若干各海軍人事部、警備府宛送付
- 追テ規則改正等ニ依リ探點標準當然改正トナルベキ場合ハ適宜探點相成度
(海軍經理學校品用校)

○本日軍極秘海軍公報第一二七號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ



海軍公報

第四九九二號

昭和二十年四月二十三日
海軍大臣官房

20.4.23

命令 達

達第七四號

燃料試驗規格中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

航空九一揮發油乙ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

航空九一揮發油(夏期用)

第三號ヲ左ノ如クスルノ外航空九一揮發油甲ノ規格ニ同ジ

三 分溜性状(試驗法第一二號甲第一法)

| | | | |
|-----|------------|----|--------|
| (イ) | 初溜溫度 | 攝氏 | 六〇度以下 |
| (ロ) | 一〇%溜出溫度 | 攝氏 | 九〇度以下 |
| (ハ) | 五〇%溜出溫度 | 攝氏 | 一二五度以下 |
| (ニ) | 九〇%溜出溫度 | 攝氏 | 一八〇度以下 |
| (ホ) | 九七%溜出溫度 | 攝氏 | 二〇〇度以下 |
| (ヘ) | 一〇〇%溜出溫度ノ和 | 攝氏 | 二六〇度以上 |

達第七五號

雷艇二十五隻ヲ特務艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

| 命 | 名 | 舊 | 雷艇名 |
|----------|-----|-------|-----|
| 第千九百九號 | 魚雷艇 | 第八號 | 雷艇 |
| 第千九百十號 | 魚雷艇 | 第十二號 | 雷艇 |
| 第千九百十一號 | 魚雷艇 | 第十三號 | 雷艇 |
| 第千九百十二號 | 魚雷艇 | 第七十號 | 雷艇 |
| 第千九百十三號 | 魚雷艇 | 第七十一號 | 雷艇 |
| 第千九百十四號 | 魚雷艇 | 第七十二號 | 雷艇 |
| 第千九百十五號 | 魚雷艇 | 第七十四號 | 雷艇 |
| 第千九百十六號 | 魚雷艇 | 第七十五號 | 雷艇 |
| 第千九百十七號 | 魚雷艇 | 第七十七號 | 雷艇 |
| 第千九百十八號 | 魚雷艇 | 第七十九號 | 雷艇 |
| 第千九百十九號 | 魚雷艇 | 第八十號 | 雷艇 |
| 第千九百二十號 | 魚雷艇 | 第九十一號 | 雷艇 |
| 第千九百二十一號 | 魚雷艇 | 第九十六號 | 雷艇 |
| 第千九百二十二號 | 魚雷艇 | 第九十七號 | 雷艇 |
| 第千九百二十三號 | 魚雷艇 | 第九十八號 | 雷艇 |
| 第千九百二十四號 | 魚雷艇 | 第九十九號 | 雷艇 |
| 第千九百二十五號 | 魚雷艇 | 第一百號 | 雷艇 |
| 第千九百二十六號 | 魚雷艇 | 第一百一號 | 雷艇 |
| 第千九百二十七號 | 魚雷艇 | 第一百二號 | 雷艇 |

海軍公報 第四九九二號

昭和二十年四月二十三日

四三五

1733

| | |
|-------------|---------|
| 第千二百二十八號魚雷艇 | 第百三號雷艇 |
| 第千二百二十九號魚雷艇 | 第百五號雷艇 |
| 第千二百三十號魚雷艇 | 第百六號雷艇 |
| 第千二百三十一號魚雷艇 | 第百七號雷艇 |
| 第百二十三號軍艇 | 第六十五號軍艇 |
| 第百二十四號軍艇 | 第六十六號軍艇 |

官房軍機密第四〇一號

海軍航空本部真空管生産技術指導委員會規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十九日

海軍大臣

別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

(内令提要卷一、三〇ノ五二ノ一〇頁参照)

官房軍第一九五號

| |
|---------|
| 第九號雷艇 |
| 第十號雷艇 |
| 第六十九號雷艇 |
| 第七十三號雷艇 |
| 第七十六號雷艇 |
| 第七十八號雷艇 |
| 第百四號雷艇 |

右雜役船籍ヨリ除ク

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

官房教機密第二一九號

海軍下士官候補者教育綱領中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十一日

海軍大臣

「海軍下士官候補者」ヲ「海軍幹部練習生」ニ改ム

(内令提要卷三、四八四ノ一頁参照)

○通牒

官房人機密第二五三號

昭和二十年四月二十一日

海軍省副官

關係各廳長殿

陸軍部隊編入中ノ者ヨリ海軍ノ學生、生徒ニ

採用セラレタル者ノ取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ陸軍ヨリ別紙ノ通牒アリタルニ付了知相成度

(別紙)

陸密第一一三九號

陸軍部隊編入中ノ者ヨリ海軍ノ學生(生徒)ニ採用セ

ラレタル者ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和二十年三月三十日

陸軍省 副官

海軍省 副官 殿

首題ノ件交通並ニ輸送ノ關係上別紙ノ通定メラレ關係軍宛通牒セラレタルニ付諒承相成度通牒ス

(別紙)

陸密第一一三九號

陸軍部隊編入中ノ者ヨリ海軍ノ學生(生徒)

ニ採用セラレタル者ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和二十年三月三十日

陸軍省 副官

自今南方諸地域、支那、滿洲國(關東州ヲ含ム)、中部太平洋諸島、臺灣、南西諸島、小笠原諸島、東京都ノ大島、三宅、八丈各支廳内諸島並ニ千島列島等ニ於ケル部隊ニ編入中ノ者ニシテ海軍ノ學生(生徒)ニ採用セラレタルモノニ付テハ昭和十九年陸密第一九三一號ニ拘ラズ特ニ定ムルモノノ外之ヲ海軍部隊ニ出頭セシメザルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス
追而本件關係部下部隊ニ徹底相成度

(參照) 昭和十九年六月十九日海軍公報(部内限)

教育機密第一八一號

昭和二十年四月二十日

海軍省 教育局 長

各領守府參謀長
聯合艦隊參謀長 殿

海軍下士官候補者教育ニ關スル件中改正ノ件
申進

昭和十九年教育機密第一四八號ニ依ル首題ノ件左ノ通改正セラレ候
「海軍下士官候補者」ヲ「海軍幹部練習生」ニ改ム

(内令提要卷二、四八四ノ二頁參照)

○ 雜 款

○機密圖書受領ニ關スル件

從來各部ヨリ海軍潜水艦部及海軍特攻部用トシテ送付セラレアリタル機密圖書ハ海軍特兵部用トシ四月十五日附受領セルモノトシ受拂關係ヲ整理相成度
(海軍特兵部)

○廳舎移轉

| 官 衙 名 | 移 轉 先 | 移 轉 日 付 | 記 事 |
|----------------------|---------------------|---------|---|
| 横須賀海軍經理部 名古屋支部 | 愛知縣西春日井郡西春日西春日國民學校内 | 三月二十九日 | 旅行順路 名古屋鐵道大山線新名古屋驛ヨリ九・一軒西春日下車徒歩西へ○・五三軒 |
| 第五百六船舶防空隊 (ウノ四八三) | 横濱市神奈川區扇畑三六青木國民學校内 | 四月二十日 | 旅行順路 横濱驛文ハ東神奈川驛下車電話神奈川局(四)ノ二六九五 |

秘海軍公報 第四九九二號

昭和二十年四月二十三日

四二七

| ○事務開始 | | 事務所名 | 設置場所 | 事務開始日 | 電話 | 記事 |
|-------------------------|----------------------------|------|------------|-------|----|---|
| 廣島海軍監督官事務所岡山出張所 松江分室 | 松江市殿町一九〇 地方海軍人事 | 四月五日 | 松江 一六三二 | | | 第八十三號海防 艦裝員事務所 大阪府西成區北加 賀屋町二一浪速 船渠株式會社內 |
| 第二十二號海防 艦裝員事務所 | 長崎三菱重工業株 式會社海防艦事務 所內 | 四月七日 | | | | 四月四日 四月一日上 轉記ノ場所ニ移 |
| 第七艦隊司令部 | 第一護衛艦隊司令 部內 | 四月二日 | | | | ○轉勤者赴任先 當隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ神ノ池某地ニ向ケ赴任センメラレ度 總武線佐原驛下車以後民營バス(佐原↓潮來)利用若クハ民 船(佐原↓大船津)利用尙徒歩ナレバ潮來經由約六時間ヲ要 ス (第七二二海軍航空隊) |

| 合同海軍葬儀執行 | | | |
|------------|-----------------|------------|-------------|
| 期日及時刻 | 大東亞戰爭戰歿者 | 喪葬管理者 | 場所記事 |
| 五月五日 〇九三〇 | 故海軍少佐近藤壽男外諸勇士 | 舞鶴海軍人事部長 | 舞鶴海兵團 佛式 |
| 五月十日 一〇〇〇 | 故海軍中佐桐山勝三外諸勇士 | 富山地方海軍人事部長 | 東本願寺別院 同 |
| 五月十二日 一〇〇〇 | 故海軍技術大尉五木政雄外諸勇士 | 新潟地方海軍人事部長 | 新潟市公會堂 同 |
| 五月十四日 一〇〇〇 | 故海軍大佐村井貞敏外諸勇士 | 山形地方海軍人事部長 | 山形市第四國民學校 同 |

委員長

海軍航空本部
第五部長

| 幹事 | 員 | 委 |
|-----------------|--------------------|--------------------|
| 海軍航空本部部長兼軍需省軍需官 | 東京芝浦電氣株式會社電子管製造所社員 | 海軍航空本部第五部第一課長 |
| 日本無線株式會社社員 | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(東京) | 海軍航空本部第五部第二課長 |
| 株式會社川西機械製作所社員 | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(大阪) | 海軍航空本部部長兼軍需省軍需官 ② |
| 住友通信工業株式會社社員 | 海軍省機械試驗所名古屋支所長 | 海軍艦政本部部長 |
| 松下電器産業株式會社社員 | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 | 第一海軍技術廠材料部部長 |
| | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官 | 第二海軍技術廠部部長 |
| | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 |
| | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(東京) | 海軍艦政本部部長 |
| | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(大阪) | 第一海軍技術廠材料部部長 |
| | 海軍省機械試驗所名古屋支所長 | 第二海軍技術廠部部長 |
| | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 |
| | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官 | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(東京) |
| | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(大阪) | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(大阪) |
| | 海軍省機械試驗所名古屋支所長 | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 |
| | 東京芝浦電氣株式會社電子管製造所社員 | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官 |
| | 日本無線株式會社社員 | 軍需省航空兵器總局第二局電氣課課長 |
| | 株式會社川西機械製作所社員 | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(東京) |
| | 住友通信工業株式會社社員 | 海軍監督官兼軍需省軍需監理官(大阪) |
| | 松下電器産業株式會社社員 | 海軍省機械試驗所名古屋支所長 |

備考

- 一 軍需省及各會社ノ者ハ海軍航空本部囑託トシテ本委員ヲ命ズルモノトス
- 二 委員中②ハ幹事兼任トス
- 三 本表ノ外必要ニ應ジ學識經驗アル者ヲ委員會ニ参加セシムルコトヲ得

秘

20.4.24

海軍公報

第四九九三號

○軍令

朕海軍總隊司令部ヲ制定シ之方施行ヲ命ズ

御名 御璽

昭和二十年四月二十三日

海軍大臣 米 内 光 政

軍令海第二號

海軍總隊司令部令

第一條 大東亞戰爭中海軍總隊司令部ヲ置ク

第二條 海軍總隊司令部ハ海軍部隊ノ作戰指揮ヲ掌ル所トス

第三條 海軍總隊司令部ニ海軍總司令長官ヲ置ク

總司令長官ハ親補トス

第四條 總司令長官ハ

天皇ニ直隸シ作戰ニ關シ聯合艦隊、支那方面艦隊、鎮守府、

警備府、商港警備府及海上護衛總司令部ノ司令長官ヲ指揮ス

總司令長官ハ軍政ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ又作戰計

畫ニ關シテハ軍令部總長ノ指示ヲ承ク

第五條 總司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

海軍總隊參謀長

海軍總隊參謀副長

海軍總隊參謀

海軍總隊副官

海軍總隊機關長

海軍總隊軍醫長

海軍總隊主計長

前項職員ノ外海軍總隊司令部附トシテ士官、特務士官、准士官、下士官及兵士ニ高等文官及判任文官ヲ置ク

第六條 海軍總隊司令部ニ必要ニ應ジ艦船部隊等ヲ附屬ス

第七條 鎮守府令第五條、第八條、第十五條、第十六條及第十八條乃至第二十一條並ニ艦隊令第二十一條及第二十二條ノ規定ハ海軍總隊司令部ニ之ヲ準用ス但シ鎮守府令第十六條ノ規定ノ準用ノ場合ニ於テハ部下將校中ニハ作戰ニ關シ總司令長官ノ指揮ヲ承クル司令長官ヲ含ムモノトス

附 則

本令ハ昭和二十年四月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

○ 令 達

内令第三三四號

海軍特兵部令左ノ通定メラル

昭和二十年四月十五日

海 軍 大 臣

秘海軍公報 第四九九三號 昭和二十年四月二十四日

四二九

1738

海軍特兵部令

第一條 海軍特兵部ハ海軍特種兵力(潜水艦並ニ水中及水上特攻兵力ヲ謂フ以下同シ)關係事項ノ連絡統合ニ任ジ且左ノ事項ノ研究、調査及企畫ヲ掌リ其ノ實行促進ニ當ル所トス
一 特種兵力關係ノ軍備、制度、編制、役務及定員ニ關スル事項

二 特種兵力關係ノ進出準備、補給ニ關スル事項

三 特種兵力關係ノ造修、整備及軍需品ニ關スル事項

四 特種兵力關係ノ教育訓練ニ關スル事項

五 特種兵力關係ノ基地施設ノ整備ニ關スル事項

六 特種兵力關係ノ要員ニ關スル事項

七 特種兵力關係ノ給與、被服及糧食ニ關スル事項

八 特種兵力關係ノ衛生ニ關スル事項

九 其ノ他特種兵力關係一般ニ關スル事項

第二條 海軍特兵部ハ常ニ海軍省各局、海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設本部、海軍運輸本部、軍令部其ノ他海軍部内ニ於ケル關係機關ト密接ニ連絡スベシ
第三條 海軍特兵部ニ左ノ職員ヲ置ク
部長
部員

第四條 部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス部長ハ作戰用兵ニ

關係アル事項ノ研究ニ關シテハ軍令部總長ノ指示ヲ承ク

第五條 部長缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキハ部下ノ兵科將校席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 部員及附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條 部長ハ研究、調査及企畫シタル事項ニシテ實施上各局部ノ所掌ニ屬スルモノハ案ヲ具シ之ヲ當該局部ニ移スト共ニ關係事務ノ促進ヲ圖ルベシ

第八條 海軍特兵部ノ定員表ハ別表ニ依ル

附則

海軍潜水艦部令ハ之ヲ廢止ス

(別表添)

(内令提要卷一、二二頁参照)

内令第三二五號

海軍省ニ於ケル海軍特種兵力(潜水艦並ニ水中及水上特攻兵力)ニ關スル文書處理ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

第一條 海軍省各局ノ審案文書ニシテ海軍特種兵力(潜水艦並ニ水中及水上特攻兵力)ニ關係アルモノハ主務局長ノ捺印ヲ受ケタル後海軍特兵部ニ送付シ連帶ヲ求ムルモノトス
第二條 海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設本部及海軍運

輸本部ヨリ提案スル文書ニ付前項ノ規定ヲ準用ス
 第三條 第一條ノ規定ハ海軍省各局、海軍艦政本部、海軍航空
 本部、海軍施設本部及海軍運輸本部ニ於テ發受スル文書ニ付
 之ヲ準用ス

附則

昭和十八年内令第八四一號海軍省ニ於ケル潜水艦ニ關スル文書
 處理ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

内令第三二六號

昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正
 ス

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

「第八〇一海軍航空隊」ヲ「第一〇一航空戰隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁參照)

内令第三二七號

昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正
 ス

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

「第二鈴鹿航空基地 第一〇〇一海軍航空隊」ヲ

| | |
|----------|-----------------|
| 小松航空基地 | 第五航空艦隊 |
| 第二鈴鹿航空基地 | 第一〇一航空戰隊 ニ改ム |
| 伊賀上野航空基地 | |
| 福知山航空基地 | |

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁參照)

内令第三二八號

特設海軍運輸部令中左ノ通改正セラル
 昭和二十年四月十五日

海軍大臣

別表第一 佐世保鎮守府所管高雄警備府ノ項中

「高雄海軍運輸部 高雄」ヲ「基隆海軍運輸部 基隆」ニ改

別表第三中「高雄」ヲ「基隆」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ六三頁參照)

内令第三二九號

昭和十八年内令第二二五九號海軍運輸部ノ支部ヲ置ク地等ノ件
 中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

| | |
|-----|-----------------|
| 別表中 | |
| 基隆 | 基隆支部 |
| 馬公 | 高雄海軍運輸部 馬公支部 |

馬公 基隆海軍運輸部 馬公支部 ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ七一頁参照)

内令第三三〇號

昭和十六年内令第六五〇號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

「海軍航空技術廠」ヲ「海軍技術廠」ニ、「海軍航空技術廠支廠」ヲ「海軍技術廠支廠」ニ改ム
 第二號(イ)中「潜水艦部」ノ下ニ、「砲積實驗部」ヲ加フ
 同號(ロ)中「發著機部」ノ下ニ、「基礎研究部、電波兵器部、通信兵器部、音響兵器部、磁氣兵器部、光熱兵器部、電氣兵器部」ヲ加フ
 第三號(ロ)中「航空醫學部」ノ下ニ、「基礎研究部、電波兵器部、通信兵器部、音響兵器部、磁氣兵器部、光熱兵器部、電氣兵器部」ヲ加フ
 同號(ニ)中「電氣研究部、電波研究部」及「音響研究部」ヲ削ル

附則

本令ハ昭和二十年二月十五日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十六年内令第六五〇號ハ海軍工務規則第三條ノ部ノ件ナリ(内令提要卷一、三〇ノ三三頁)

官房軍機密第一三一號

海軍特攻部規程ハ昭和二十年四月十四日限り之ヲ廢止ス

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

(内令提要卷一、二二ノ五頁参照)

○通牒

海人四機密第一五一號

昭和二十年四月二十四日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

戰時召集延期者削除ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通牒軍省ヨリ通牒有之候條可然取計相成度

(別紙)

陸密第一五九八號

戰時召集延期者削除ニ關スル件通牒

昭和二十年四月十二日

陸軍省副官

情勢ノ進展ニ伴ヒ自今戰時召集延期乙種(甲、乙區分ナキモノ
ニ在リテハ乙種ト見做ス)該當者ハ逐次其ノ適用ヲ削除セラル
ルニ付承知セラレ度依命通牒ス

追而甲、乙種區分ノ變更等ニ關シテハ別紙ニ據ラレ度申添フ
(別紙)

一 現ニ戰時召集延期乙種(甲、乙區分ナキモノニ在リテハ乙
種ト見做ス)ト爲シアル者ニシテ爾後ノ檢討又ハ狀況ノ變化
等ニヨリ甲種ニ變更ヲ要スルモノハ甲種配當數内ニ於テ甲種
ニ變更スルコトヲ得

此ノ場合ニ在リテハ役種別、歸還者及其ノ他別區分等ハ考慮
ノ要ナキモノトス

二 年齢十七年未滿ニシテ志願ニ依リ第二國民兵役ニ編入セラ
レタル者及徵兵終決處分ヲ經サル第二國民兵中特ニ重要ナル
者ハ配當數内ニ於テ要度種別區分ニ應シ戰時召集延期候補者
クラシムルコトヲ得

三 前各號ニ依ル變更ノ實施ハ關係官衙、學校、會社、工場、
事業場等ノ長ヨリ直接關係師管區司令官宛變更名簿(別紙様
式)ヲ提出スルモノトス

註 召集セラレタル者ノ召集解除ニ關シ直接聯隊區又ハ部隊
等ニ願出ツルモノ尠カラサル實情ナルモ嚴ニ之ハ戒メラレ
度又陸軍大臣ニ於テ行フ召集解除ハ眞ニ止ムヲ得サル場合
ノ外一切之ヲ認メサルニ付承知セラレ度

(別紙添)

艦本機密兵無線第三〇五號

昭和二十年四月二十日

海軍艦政本部長
海軍省軍需局長

各海軍軍需部長 殿

各種「ラヂオ」受信機同用消耗品保管轉換ノ
件通牒(通信長主管)

左記ニ依リ「ラヂオ」受信機ヲ情報受信用トシテ保管轉換スベ
シ

記

- 一 在庫ノ「ラヂオ」受信機ヲ經營需品ヨリ兵器ニ移管ス
- 二 艦船部隊學校等ニ供給貸與中ノモノハ第一號ニ基キ移管ノ
コトトシ共ノ整理ハ帳簿ノ轉記ニ依ル
- 三 會計官吏並ニ海軍艦政本部ニ通報スルモノトス
- 四 艦船部隊學校以外及軍需部貸與中ノモノハ通常物品トス
移管後ノ品名ヲ「情報受信機」ト改稱シ全波受信機ヲ「一
型」、中波受信機ヲ「二型」ト呼稱ス

○雜 款

○司令海防艦變更

第二十一海防隊司令ハ四月七日司令海防艦ヲ千珠ニ變更セリ

秘海軍公報 第四九九三號 昭和二十年四月二十四日

四三三

1742

| ○開除 開除 | | 官衙、部隊名 | 所在地 | 開除、開 | 記 |
|--------------------|--------------------|-----------------|--|--|---|
| 第五十七警備隊 | | 千島諸島松輪島 | 二月二〇日 | 二月二〇日附シテ第五十三警備隊松輪派遣隊ハ解隊 | |
| 海軍特兵部 | | 東京都知町區役ケ關二ノ一海軍省 | 四月二五日 | 一 郵便物發送先 二 東京都知町區役ケ關二ノ一海軍省內海軍特兵部 三 從來海軍潜水艦部及海軍特兵部宛ノ送付ハ自今 | |
| ○應合移轉 | | | | | |
| 官衙名 | 移轉先 | 移轉月日 | 記 | | |
| 廣須賀海軍運輸部 濱ヶ浦出張所 | 茨城縣稻敷郡朝日村大字荒川沖番地ノ一 | 四月一日 | 願路 當警線荒川沖下車徒歩約十分 電話 海軍電話 一 空廠交換 三八〇番 | | |
| 海軍功績調査部 | 横濱市港北區日吉町海軍省第七分室 | 四月二〇日 | | | |
| ○事務開始 | | | | | |
| 事務所名 | 設置場所 | 事務開始日 | 電話 | 記事 | |
| 特設運送船旭東丸 業務整理班 | 吳海軍經理部內吳鎮守府整理班內 | 三月八日 | | | |
| 第三號海防艦業務 整理班 | 同 | 三月二〇日 | | | |
| 第三百十三號警備隊 業務整理班 | 同 | 四月二日 | | | |

| | | | |
|-------------------|---|------|--|
| 第二次運出機帆船 業務整理班 | 同 | 四月五日 | |
|-------------------|---|------|--|

○轉勤者旅行ノ件
當隊ヘノ轉勤者旅行方法ニ關シ山形縣北村山郡神町(神町海軍航空隊)又ハ茨城縣鹿島郡高松村(神ノ池航空基地)ト指定セラルル向相當多ク誤入隊ノ爲轉入期日ノ遲延事務輻輳等ノ支障不尠ニ付直接茨城縣筑波郡谷田部町ニ向ケ旅行セシメラレ度
追テ當隊ハ客年十二月五日附神ノ池海軍航空隊解隊ニ伴ヒ谷田部海軍航空隊ト改稱同日舊谷田部海軍航空隊ハ神町海軍航空隊ト改稱セラレ候ニ付郵便物送達方ニ關シテモ可然處理相成度
(谷田部海軍航空隊)

○本日軍機秘海軍公報第一一八號(乙配付)發行セリ
配付先
各司令部、各海軍軍需部、各海軍經理部、各海軍衣糧廠、海軍經理學校、海軍潜水學校

(内令第三二四號別表)

海軍特兵部定員表

(昭和二十年四月二十四日秘海軍公報)

| | | | | |
|-------------|--|------------------|-----------------------|------------------|
| 考 備 計 | 士 官 | 部 長 | 中 將 | 内務一 |
| | | 部 員 | 大 中 佐 | 内務兼一 |
| | | | 中 少 佐 | 十三 内務兼 九兼一 |
| | | | 軍 醫 中 少 佐 | 兼務一 |
| | | | 主計少佐、主計大尉 | 兼務三 |
| | | | 技 術 中 大 尉 | 兼務三 |
| | | 判 任 文 官 | 書 記 | 四 |
| | | 計 | | 内兼務十三人 兼務十四人 |
| 一 | 部員中大中佐一人ハ海軍省教育局局員、中少佐四人ハ海軍省軍務局、人事局及教育局ノ局員、三人ハ海軍艦政本部部員、二人ハ軍令部部員ヲ以テ兼補ス | | | |
| 二 | 部員中軍醫中少佐ハ海軍省醫務局局員、技術中少佐、技術大尉ハ海軍施設本部部員ヲ以テ兼補ス | | | |
| 三 | 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得 | | | |

（海人四機密第一五一號別紙様式）

（昭和二十年四月二十四日秘海軍公報）

戦時召集延期者（要別）變更名簿

部局工場等ノ所在地及名稱
調製年 月 日

| 業務種別 | 新 | | 舊 | | 役種、兵種、部、官等級（任官年） | 徵集年 | 本籍地 | 氏名 | 調査官廳名 | 海軍省 |
|------|----|----|----------|------------|------------------|-----|-------------------|----|-------|-----|
| | 要別 | 順位 | 要別 | 順位 | | | | | | |
| | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 豫、輜、上 | 昭三 | 東京、 愛知、 静岡、 | | | |
| | | | 6 160 | 110 120 | 豫、歩、軍曹 | 昭四 | 東京、 | | | |

調製上ノ注意

一 本名簿ハ夫々本籍地所管ノ師管區司令部用一通及當該師管區内關係聯隊區司令部用一通ヲ調製送付スルモノトス（本記載例ニ依ル送付區分ハ東京師管區司令部宛三通、名古屋師管區司令部宛三通ト爲ルモノトス）



海軍公報

第四九九四號

昭和二十年四月二十五日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令第二六四號ノ二

第百七十三號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保領守府ト定ム

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣 臣

内令第二六四號ノ三

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣 臣

第一監視艇隊ノ項中「第一號哨戒特務艇、」ノ下ニ「第百七十三號哨戒特務艇、」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

官房機密第二五〇號

當分ノ間分離行動等ノ事由ニ依リ所屬隊ノ兵備品取扱主任ヨリ糧食品ノ供給ヲ受クルト困難ナル監視艇又ハ特設監視艇ニ對シテハ昭和十七年官房機密第五七三二號ヲ準用スルコトヲ得
昭和二十年四月二十三日

秘海軍公報 第四九九四號 昭和二十年四月二十五日

(参照) 海軍機密會計法規類集二〇二頁

官房第四二一號

雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣 臣

| 公稱番號 (船名) | 船種 | 舊所屬 | 新所屬 | 定數 | 記事 |
|--------------|-----------------|--------|--------|----|----|
| 第四三〇號 | 曳船兼交通船 (十五艘) | | | | |
| 第四九八號 | 同 (二十二艘) | | | | |
| 第二四四號 | 曳船 (二百五十艘) | | | | |
| 第二六〇號 | 同 (百三十五艘) | | | | |
| 第二六二號 | 同 (九十五艘) | | | | |
| 第二六八號 | 交 (二十九艘) | | | | |
| 第二七三號 | 内 (七・五米) | 海軍技術研究 | | | |
| 第二七三號 | 傳 (十・五米) | | 第二海軍技術 | | |
| 第二四四號 | 同 (四・六米) | | | | |
| 第二三三號 | 同 (六・五米) | | | | |

四三五

1746

| | | | | |
|-------|-------------|--------|---|----|
| 第七八號 | 傳馬(六隻) | 海軍航空技術 | 廣 | 定數 |
| 第七六號 | 運(貨物船) | 海軍航空技術 | 廣 | 定數 |
| 第四〇四號 | 潜水作業艇 | 海軍航空技術 | 廣 | 定數 |
| 第三七七號 | 内(火) | 海軍航空技術 | 廣 | 定數 |
| 第五〇〇號 | 交通船(兼曳船) | 海軍航空技術 | 廣 | 定數 |
| 第三四海 | 交通船(六百二十五噸) | 水陸部 | 陸 | 定數 |
| 第三二四號 | カツタ | 陸軍特別 | 陸 | 定數 |
| 第三二六號 | (五隻) | 陸軍特別 | 陸 | 定數 |
| 第一五五號 | 同 | 陸軍特別 | 陸 | 定數 |
| 第一五九號 | (五隻) | 陸軍特別 | 陸 | 定數 |

○通 牒

官房機密第一三四號ノ二八

昭和二十年四月十五日

海軍省 副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書
現狀表第五〇號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

○雜 款

○將旗掲揚
本職四月十日將旗ヲ門司第一護衛艦隊司令部ニ掲揚セリ
(第七艦隊司令長官)

○本日軍極秘海軍公報第一一九號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ



20.4.26

海軍公報 第四九九五號

昭和二十年四月二十六日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第七九號

海軍機關教範中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

第八十八條第十號ヲ左ノ如ク改ム

十 充電中ハ二器電壓大凡二・四五「ボルト」以上ニ達スレバ水素「ガス」ノ發生量激増シ空氣中ノ水素「ガス」含有量容積ニテ百分ノ七・八以上ニ至ラバ火花又ハ火氣ニ依リ容易ニ引火爆發スルヲ以テ電池船體間ノ絶縁、金屬ノ衝突其ノ他火花發生ノ防止ニ對シ嚴密ナル注意ヲ拂ヒ且電池及瓦斯排出口附近ニ火氣ヲ接近セシメザルヲ要ス

第八十八條ノ二ニ左ノ一號ヲ加フ

五 排氣管ノ裝備ナキ蓄電池ニ對シ「カドミウム」補助極ヲ使用シ電壓測定ノ際「カドミウム」補助極ヲ電解液ヨリ引揚グル場合ニハ必ず電壓計ノ端子棒ヲ蓄電池ノ陽極又ハ陰極ヨリ離脱セル後ニ之ヲ行フベシ

第八十九條第一號中「如何ナル場合ト雖モ水素「ガス」含有量ヲ容積ニテ百分ノ三以上ニ達セシムベカラズ」ヲ「水素「ガス」含有量ヲ容積ニテ充電中ニ在リテハ百分ノ三以上ニ其ノ他ノ場

合ニ在リテハ百分ノ六以上ニ達セシムベカラズ」ニ改ム
第八十九條中第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下ガ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二 排氣管ヲ装着セザル蓄電池ニ在リテハ電池室内ハ常ニ水素「ガス」含有量ヲ容積ニテ百分ノ六以上ニ達セシムベカラズ特ニ充電終期及終了後ノ相當期間ハ電池内水素「ガス」含有量ハ容積ニテ百分ノ六ヲ超過スルヲ例トスルヲ以テ電池排氣口附近ニ絶對ニ火氣ヲ發生セシメザルヲ要ス

官房經第二二二號

昭和十九年官房經第五三四號外一件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

一 昭和十九年官房經第五三四號中左ノ通改正ス
「國民勤勞報國協力令」ヲ「國民勤勞動員令」ニ改ム
別表學生ノ項中「專門學校以上」ヲ「專門學校(中等學校ノ附設課程ニ在ル者ヲ含ム)以上」ニ改ム
二 昭和十九年官房經第五三五號中左ノ通改正ス
別表中男子ノ欄「專門學校」ノ下ニ「(中等學校ノ附設課程ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ヲ加フ

附則

秘海軍公報 第四九九五號 昭和二十年四月二十六日

四三七

1748

本令ハ昭和二十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十九年官房經第五三四號

(參照)

官房經第五三五號

(海軍會計法規類集三卷二〇八ノ二頁) (同) (二〇八ノ三ノ二頁)

官房經機密第二五一號

戰時軍人軍屬旅費特例中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

第九條中「戰地」ヲ「戰地又ハ準戰地(伊豆諸島、薩南諸島、琉球諸島及臺灣ヲ謂フ以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第十一條ノ五中「戰地ニ在ル」ヲ「戰地又ハ準戰地ニ在ル」ニ改ム

「戰地外」ヲ「戰地外又ハ準戰地外」ニ改メ同條ヲ第十一條ノ六トシ以下第十一條ノ八迄順次繰下グ

第十一條ノ四ヲ第十一條ノ五トス

第十一條ノ四 鐵道賃計算上本邦ニ在ル鐵道ハ二、三等ノ設備

アル區間トシテ取扱フコトヲ得

第十五條中「戰地」ノ下ニ「準戰地」ヲ加フ

第十五條ノ二ヲ第十五條ノ三トシ第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十五條ノ二 戰地若ハ準戰地ニ在ル艦船部隊其ノ他各部ニ勤務スル者又ハ第十二條乃至第十四條ノ規定ニ該當スル者ノ家族移轉完了届ハ海軍内國旅費規則其ノ他ノ規定ニ拘ラズ之ヲ

省略スルコトヲ得

第十八條ノ三 勤務廳所在市町村内ニ於テ轉勤スル者ニシテ官舎居住又ハ官舎明渡ノ爲住所ヲ移轉シタルモノニハ海軍内國旅費規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ所轄長必要ト認ムル場合ニ限リ百料未満ノ移轉料ノ定額ノ三分ノ二以内ノ額ノミヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル場合ノ外官舎居住又ハ官舎明渡ノ爲住所ヲ移轉シタルトキハ所屬長官ノ認許ヲ得テ前項ノ規定ニ準ジ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

第十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

内地(戰地又ハ準戰地タル地域ヲ除ク以下之ニ同ジ)、關東州若ハ滿洲ト外地、戰地若ハ準戰地トノ間、關東州若ハ滿洲トノ間、外地ト戰地若ハ準戰地トノ間、戰地ト準戰地トノ間又ハ外地、戰地若ハ準戰地各相五間ヲ赴任又ハ轉勤スル者ニ支給スル旅費ハ到着地ニ於テ之ヲ精算ヲ爲スコトヲ得

第二十條ノ五 海軍兵歸省及家族出頭旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃ノ支給及一日ノ旅行行程ニ關シテハ同則第九條、第十條及第十三條ノ規定ニ拘ラズ海軍内國旅費規則第五條、第十八條、第十九條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和二十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年官房經機密第三八一號、同官房經機密第六四四號及同官房經第一一七三號ハ昭和二十年四月三十日限り之ヲ廢止ス

昭和十四年官房第四三七八號中「海軍機關學校生徒」ヲ削ル
 昭和十八年官房第一二二二一號中「下士官兵」ヲ「生徒、下士官兵、豫備員候補者」ニ改ム

戰時軍人軍屬旅費特例（海軍機密會計法規類集三二九頁）
 昭和十八年官房機密第三八一號ハ基礎教育中ノ二等兵タル補充兵及國民兵ノ給與ニ關スル件ナリ

昭和十八年官房機密第六四四號ハ見習尉官、豫備學生及豫備生徒ノ給與ニ關スル件ナリ

（參照）

昭和十八年官房第一一七三號ハ下士官兵練習生ヲ命免セラレ轉勤ノ爲旅行スル場合ノ旅費ニ關スル件ナリ

昭和十四年官房第四三七八號ハ海軍各學校ノ生徒採用ノ爲召喚セラレタル者ニ對スル滞在旅費ニ關スル件ナリ

昭和十八年官房第一二二二一號ハ海軍病院入院中歸郷療養ヲ命セラレタル者ノ旅費ニ關スル件ナリ

（同）
 六五五頁
 六五五頁

官房機密第五號ノ四八

昭和二十年四月二十四日

海軍大臣

各、鎮守府、各、鎮守府、司令長官殿

兵器簿ノ件通達

海軍航空隊（航空基地ヲ含ム）兵器簿内務長主管ノ部申左記ノ

祕海軍公報 第四九九五號 昭和二十年四月二十六日

通改正ス
 尙本兵器ハ追テ航空兵器定數簿通信長主管（航空）ニ追加スルモノトス

記

| 指定 | 類別 | 品名 | 當備數 | 記事 |
|----|---------|-------------|-----|----|
| 削除 | 電氣通信器之部 | 高聲令達機及同關聯裝置 | 全部 | |

官房機密第一三七號

昭和十七年官房機密第一四一八號申左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

別表陸戰隊被服ノ部(イ)及(ロ)左ノ如ク改ム

| 品名 | 貸與數 | 貸與區分 | 製式 | 貸與範圍 |
|------------|-----|------|-------------|--------------------|
| 准士官以上劔帶 | 一個 | | 褐色革又ハ褐色布製 | 戰地ニ在リテ |
| 略帽 | 一個 | | 第三種軍裝用モノニ同ジ | 勤務スル者又ハ總隊若ハ海上護衛總司令 |
| 准士官以上略衣 | 二個 | | 服制ニ定ムルモノニ同ジ | 部ニ屬スル艦 |
| 准士官以上略袴 | 二個 | | 同 | 船部隊ニ於テ |
| 准士官以上襟章 | 二組 | | 軍衣襟章ニ同 | 陸戰隊ノ配置ニ在リ任務上 |
| 准士官以上褐色シャツ | 三個 | | 褐色布製 | ニ必要ナル者 |
| ネクタイ | 一個 | | 第三種軍裝用モノニ同ジ | |

四三九

| | |
|---|--|
| <p>海人三機密第一號ノ一〇四 昭和二十年四月二十三日</p> <p>海軍省人事局長</p> <p>各領守府參謀長殿 築城施設關係ノ工作兵ヲ技術兵ニ轉科ノ件申 改正ノ件申進</p> | <p>一 昭和二十年三月三十一日迄ニ企業整備本部(工場轉用申請書ニ在リテハ主務官廳以下同シ)ニ於テ受理シタル申請書ニシテ四月三十日迄ニ轉用通知書又ハ轉用證明書ヲ發行シタルモノハ之ヲ昭和十九年度分トシテ處理シ其ノ他ハ之ヲ昭和二十年分トシテ處理スルモノトス但シ三月三十一日迄ニ工場等轉用協議會ニ於テ爲シタル決定ニ基テ申請書ニシテ四月十五日迄ニ企業整備本部ニ於テ受理シタルモノハ昭和十九年度分トシテ處理スルモノトス</p> <p>二 昭和二十年分ト昭和十九年度分トヲ區別スル爲昭和二十年分トシテ處理スベキ轉用證明書ニハ其ノ欄外ニ(20)ノ表示ヲ爲スモノトス</p> <p>三 其ノ他ノ事項ニ付テハ「工場等轉用ニ關スル實施要綱」及「昭和十九年度工場及設備轉用ニ關スル實施要領」ニ基キ處理スルモノトス但シ物資動員計畫ニ關聯スルモノニ付テハ右計畫設定後決定スルモノトス</p> |
| <p>〇銓衡試驗問題發送 昭和二十年前期 高等科氣象術 特技章付與銓衡試驗問題 普通科氣象術 (試驗期日昭和二十年六月一日)</p> <p>右三月三十一日左記ノ通發送濟ニ付末着又ハ別、必要ノ向ハ最寄海軍人事部若ハ海軍氣象學校ニ請求相成度</p> <p>記</p> | <p>經三給機密第八一號 昭和二十年四月十日</p> <p>海軍省經理局長</p> <p>關係各所轄長殿 臺灣、沖繩諸島ヲ受領地トスル家族渡ニ關スル件通知</p> <p>首題ノ件ニ關シテハ從來兎角送金ニ支障アリシ爲當分ノ間臺灣ヲ受領地トスル者ニ對シテハ高雄海軍經理部ヨリ沖繩諸島ヲ受領地トスル者ニ對シテハ沖繩特別根據地隊ヨリ夫々家族渡ノコトニ取計置候條此ノ旨關係ノ向ニ周知方取計相成度</p> <p>追テ當該家族ニ對シテハ當局ヨリ其ノ旨通知濟ニ有之候</p> <p>〇雜 款</p> |

秘海軍公報 第四九九五號 昭和二十年四月二十六日

四四一

- 一 單獨試驗實施豫想ノ向ニハ直送
- 二 聯合試驗用ハ各海軍人事部長ニ
- 三 行動豫定變更其ノ他ノ理由ニ依リ單獨實施用トシテ若干各海軍人事部ニ送付シテ

(海軍氣象學校)

第二回高等科 (掌信號兵(見張)兵) 特技章付與銜試驗問題

第五回普通科 (掌信號兵(見張)兵) 特技章付與銜試驗問題

右四月十七日左記ノ通發送濟ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、整備府又ハ海軍航海學校ニ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
- 二 聯合試驗用ハ各海軍人事部宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用若干部各海軍人事部宛送付シテ

(海軍航海學校)

○履歴記註事項ニ關スル件

當隊第一郡山海軍航空隊ト改稱セラレ候ニ就テハ本年二月十一日以後本隊定員、練習生、講習員及新兵タリシモノニシテ現ニ所轄勤務員タル者ヲ調査ノ上左記ノ通記註相成度

記

- (イ) 三、三二 内令第一二六號ニ依リ第一郡山海軍航空隊ト改稱
- 第一郡山
- (ロ) 三、三二 第一郡山海軍航空隊閉シ命ス(官房人)
- 第一郡山

但シ(ロ)項ニ對シテハ二月十一日本隊定員タリシ者ノミトス (第一郡山海軍航空隊司令)

○本日海軍公報發行セズ

配付先 關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、吳海軍工廠、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四九九六號

昭和二十年四月二十七日(金)

海軍大臣官房

○令 達

内令第三三一號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十五日

海軍大臣 臣

第十六潜水隊ノ項中「波號第百二、」ノ下ニ「波號第百三、」ヲ加フ

第三十三潜水隊ノ項中「伊號第百一、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第三三二號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月十五日

海軍大臣 臣

第二十一海防隊ノ項中「新南」ノ下ニ「第二十七號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第三三三號

横須賀鎮守府所管

特設驅潛艇 第二萬代丸

同 第六惠山丸

同 第七惠山丸

同 第八惠山丸

同 第一大平丸

吳鎮守府所管

同 第九神威丸

同 第九白神丸

右佐世保鎮守府所管ト改ム

昭和二十年四月十五日

海軍大臣 臣

内令第三三四號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十五日

海軍大臣 臣

佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第四十三日ノ丸(佐)」ノ次ニ「第二萬代丸(佐)、第六惠山丸(佐)、第七惠山丸(佐)、第八惠山丸(佐)、第一大平丸(佐)、第九神威丸(佐)、第九白神丸(佐)」ヲ加フ

高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第九神威丸(吳)、第九白神丸(吳)」ヲ削ル

秘海軍公報 第四九九六號 昭和二十年四月二十七日

四四三

1754

第三海上護衛隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第三三五號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

特務艇、魚雷艇第四百一十一號型ノ項中「第四百七十三號」ノ下ニ、「第千二百二十四號、第千二百二十五號、第千二百二十六號、第千二百二十七號、第千二百二十八號、第千二百二十九號、第千二百三十號、第千二百三十一號」ヲ、同第四百六十九號型ノ項中「第八百三十七號」ノ下ニ、「第千二百二十號、第千二百二十一號、第千二百二十二號、第千二百二十三號」ヲ、同第五百三十八號型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

| | |
|----------|---|
| 第千九百九號型 | 第千九百九號、第千一百十號、第千一百一十一號 |
| 第千一百十二號型 | 第千一百十二號、第千一百十三號、第千一百十四號、第千一百十五號、第千一百十六號、第千一百十七號、第千一百十八號、第千一百十九號 |

同十號型ノ項中「第七十三號」ノ下ニ「第百二十三號、第百二十四號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第三三六號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

第十七驅逐隊ノ項中「霧風」ノ下ニ、「初霜」ヲ加フ
第二十一驅逐隊ノ項中「初霜」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第三三七號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

第十九潛水隊ノ項ヲ削ル
第三十三潛水隊ノ項中「呂號第六十二」ノ上ニ「伊號第百二十一、伊號第百二十二、伊號第百五十五」ヲ加フ
第三十四潛水隊ノ項中「伊號第百五十六」ノ下ニ「伊號第百五十七、伊號第百五十八、伊號第百五十九」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第三三八號

横須賀鎮守府警備艦

軍艦長門

右役務ヲ解カレ

佐世保鎮守府警備艦
軍艦 榛名

吳鎮守府豫備海防艦
第十二號海防艦
第四十號海防艦
第一百十二號海防艦
第一百五十號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

横須賀鎮守府豫備艦
軍艦 長門

吳鎮守府第一豫備艦
軍艦 伊勢

吳鎮守府豫備艦
軍艦 日向
軍艦 青葉

佐世保鎮守府豫備艦
軍艦 鳳翔
軍艦 鷹

舞鶴鎮守府豫備艦
軍艦 榛名

軍艦 龍鳳

右第四豫備艦ト定ム

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

内令第三三九號

自 第一千九號魚雷艇
至 第一千三十一號魚雷艇
魚雷艇 第二百二十三號軍艇
同 第二百二十四號軍艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

内令第三四〇號

吳鎮守府在籍

魚雷艇 第二百十八號軍艇
同 第二百十九號軍艇
自同 第二百二十六號軍艇
至同 第二百四十五號軍艇

佐世保鎮守府在籍

自 第八百五十四號魚雷艇
至 第八百五十九號魚雷艇
自 第八百七十九號魚雷艇
至 第八百八十三號魚雷艇

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>自魚雷艇 第百八號軍艇 至同 第百十四號軍艇</p> <p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ニ改ム 佐世保鎮守府在籍</p> <p>自 第八百八十四號魚雷艇 至 第八百八十六號魚雷艇</p> <p>舞鶴鎮守府在籍</p> | <p>自 第五百三十五號魚雷艇 至 第五百三十七號魚雷艇</p> <p>自 第五百四十一號魚雷艇 至 第五百四十二號魚雷艇</p> <p>自 第五百四十四號魚雷艇 至 第五百四十七號魚雷艇</p> <p>自 第五百四十八號魚雷艇</p> <p>右本籍ヲ吳鎮守府ニ改ム 舞鶴鎮守府在籍</p> <p>第五百四十三號魚雷艇 第五百四十五號魚雷艇 第五百四十六號魚雷艇 自 第五百四十九號魚雷艇 至 第五百五十五號魚雷艇</p> | <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ニ改ム 昭和二十年四月二十日</p> <p>海軍大臣</p> | |
| <p>官房軍第二〇二號 當分ノ開館山海軍砲術學校ノ施設ハ横須賀海軍砲術學校ノ施設ニ準ジ之ヲ使用スルコトヲ得 昭和二十年四月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> | <p>官房軍第二〇三號 大東亞戰爭中各衛科學生、練習生、講習員等ノ教育ヲ實施スル海軍部隊ハ關係各學校ト緊密ナル連絡ヲ保持スベシ 昭和二十年四月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> | <p>官房人機密第二六九號 特技兵臨時講習及人事取扱規則並ニ大東亞戰爭中特修兵養成ニ關スル特例中「看護術」ヲ「衛生術」ニ改ム 昭和二十年四月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>(内令提要卷二、一七頁及二七頁參照)</p> | <p>官房經第二二五號 昭和十七年官房第一七一六號中左ノ通改正ス 昭和二十年四月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二號(中)「各二十一日附」ヲ「各十六日附」ニ改ム</p> |

秘

海軍公報

第四九九七號

昭和二十年四月二十八日(土)
海軍大臣官房

〇令 達

内令第三四一號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

第二十六魚雷艇隊ノ項中「832 834 837 839 840 842 843 849」及「541(舞)ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第三四二號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

大湊防備隊ノ項魚雷艇ノ欄ニ「自第二百二十六號集艇(横)至第二百二十九號集艇(横)」ヲ

加ヘ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

| | |
|-------|-------------|
| 厚岸防備隊 | 第二百十八號集艇(横) |
| | 第二百十九號集艇(横) |

鎮海防備隊ノ項魚雷艇ノ欄「第二百二十號集艇(佐)至第二百二十二號集艇(佐)」ヲ

「自第五百五十一號至第五百五十四號(佐) 自第八百九十九號至第九百零三號(佐) 自第九百零四號至第九百零九號(佐) 自第九百一十號至第九百一十九號(佐) 自第九百二十號至第九百二十二號(佐)」

ニ改ム

第二特攻戰隊ノ項ノ次ニ左ノ十一項ヲ加フ

| | |
|---------|----------------------------|
| 第十一突擊隊 | 自第三百三十三號集艇(横)至第三百三十六號集艇(横) |
| 第十二突擊隊 | 自第三百三十七號集艇(横)至第三百四十二號集艇(横) |
| 第十三突擊隊 | 自第三百四十三號集艇(横)至第三百四十八號集艇(横) |
| 第十四突擊隊 | 自第三百四十九號集艇(横)至第三百五十四號集艇(横) |
| 第十五突擊隊 | 自第三百五十五號集艇(横)至第三百六十號集艇(横) |
| 第十六突擊隊 | 自第三百六十一號集艇(横)至第三百六十六號集艇(横) |
| 第十七突擊隊 | 自第三百六十七號集艇(横)至第三百七十二號集艇(横) |
| 第十八突擊隊 | 自第三百七十三號集艇(横)至第三百七十八號集艇(横) |
| 第十九突擊隊 | 自第三百七十九號集艇(横)至第三百八十四號集艇(横) |
| 第二十突擊隊 | 自第三百八十五號集艇(横)至第三百九十號集艇(横) |
| 第二十一突擊隊 | 自第三百九十一號集艇(横)至第三百九十六號集艇(横) |
| 第二十二突擊隊 | 自第三百九十七號集艇(横)至第四百零二號集艇(横) |
| 第二十三突擊隊 | 自第四百零三號集艇(横)至第四百零八號集艇(横) |
| 第二十四突擊隊 | 自第四百零九號集艇(横)至第四百一十四號集艇(横) |
| 第二十五突擊隊 | 自第四百一十五號集艇(横)至第四百二十號集艇(横) |
| 第二十六突擊隊 | 自第四百二十一號集艇(横)至第四百二十六號集艇(横) |
| 第二十七突擊隊 | 自第四百二十七號集艇(横)至第四百三十二號集艇(横) |
| 第二十八突擊隊 | 自第四百三十三號集艇(横)至第四百三十八號集艇(横) |
| 第二十九突擊隊 | 自第四百三十九號集艇(横)至第四百四十四號集艇(横) |
| 第三十突擊隊 | 自第四百四十五號集艇(横)至第四百五十號集艇(横) |
| 第三十一突擊隊 | 自第四百五十一號集艇(横)至第四百五十六號集艇(横) |
| 第三十二突擊隊 | 自第四百五十七號集艇(横)至第四百六十二號集艇(横) |
| 第三十三突擊隊 | 自第四百六十三號集艇(横)至第四百六十八號集艇(横) |
| 第三十四突擊隊 | 自第四百六十九號集艇(横)至第四百七十四號集艇(横) |
| 第三十五突擊隊 | 自第四百七十五號集艇(横)至第四百八十號集艇(横) |
| 第三十六突擊隊 | 自第四百八十一號集艇(横)至第四百八十六號集艇(横) |
| 第三十七突擊隊 | 自第四百八十七號集艇(横)至第四百九十二號集艇(横) |
| 第三十八突擊隊 | 自第四百九十三號集艇(横)至第四百九十八號集艇(横) |
| 第三十九突擊隊 | 自第四百九十九號集艇(横)至第五百零四號集艇(横) |
| 第四十突擊隊 | 自第五百零五號集艇(横)至第五百一十號集艇(横) |
| 第四十一突擊隊 | 自第五百一十一號集艇(横)至第五百一十六號集艇(横) |
| 第四十二突擊隊 | 自第五百一十七號集艇(横)至第五百二十二號集艇(横) |
| 第四十三突擊隊 | 自第五百二十三號集艇(横)至第五百二十八號集艇(横) |
| 第四十四突擊隊 | 自第五百二十九號集艇(横)至第五百三十四號集艇(横) |
| 第四十五突擊隊 | 自第五百三十五號集艇(横)至第五百六十號集艇(横) |
| 第四十六突擊隊 | 自第五百六十一號集艇(横)至第五百六十六號集艇(横) |
| 第四十七突擊隊 | 自第五百六十七號集艇(横)至第五百七十二號集艇(横) |
| 第四十八突擊隊 | 自第五百七十三號集艇(横)至第五百七十八號集艇(横) |
| 第四十九突擊隊 | 自第五百七十九號集艇(横)至第五百八十四號集艇(横) |
| 第五十突擊隊 | 自第五百八十五號集艇(横)至第五百九十號集艇(横) |
| 第五十一突擊隊 | 自第五百九十一號集艇(横)至第五百九十六號集艇(横) |
| 第五十二突擊隊 | 自第五百九十七號集艇(横)至第六百零二號集艇(横) |
| 第五十三突擊隊 | 自第六百零三號集艇(横)至第六百零八號集艇(横) |
| 第五十四突擊隊 | 自第六百零九號集艇(横)至第六百一十四號集艇(横) |
| 第五十五突擊隊 | 自第六百一十五號集艇(横)至第六百二十號集艇(横) |
| 第五十六突擊隊 | 自第六百二十一號集艇(横)至第六百二十六號集艇(横) |
| 第五十七突擊隊 | 自第六百二十七號集艇(横)至第六百三十二號集艇(横) |
| 第五十八突擊隊 | 自第六百三十三號集艇(横)至第六百三十八號集艇(横) |
| 第五十九突擊隊 | 自第六百三十九號集艇(横)至第六百四十四號集艇(横) |
| 第六十突擊隊 | 自第六百四十五號集艇(横)至第六百五十號集艇(横) |
| 第六十一突擊隊 | 自第六百五十一號集艇(横)至第六百五十六號集艇(横) |
| 第六十二突擊隊 | 自第六百五十七號集艇(横)至第六百六十二號集艇(横) |
| 第六十三突擊隊 | 自第六百六十三號集艇(横)至第六百六十八號集艇(横) |
| 第六十四突擊隊 | 自第六百六十九號集艇(横)至第六百七十四號集艇(横) |
| 第六十五突擊隊 | 自第六百七十五號集艇(横)至第六百八十號集艇(横) |
| 第六十六突擊隊 | 自第六百八十一號集艇(横)至第六百八十六號集艇(横) |
| 第六十七突擊隊 | 自第六百八十七號集艇(横)至第六百九十二號集艇(横) |
| 第六十八突擊隊 | 自第六百九十三號集艇(横)至第六百九十八號集艇(横) |
| 第六十九突擊隊 | 自第六百九十九號集艇(横)至第七百零四號集艇(横) |
| 第七十突擊隊 | 自第七百零五號集艇(横)至第七百一十號集艇(横) |
| 第七十一突擊隊 | 自第七百一十一號集艇(横)至第七百一十六號集艇(横) |
| 第七十二突擊隊 | 自第七百一十七號集艇(横)至第七百二十二號集艇(横) |
| 第七十三突擊隊 | 自第七百二十三號集艇(横)至第七百二十八號集艇(横) |
| 第七十四突擊隊 | 自第七百二十九號集艇(横)至第七百三十四號集艇(横) |
| 第七十五突擊隊 | 自第七百三十五號集艇(横)至第七百四十號集艇(横) |
| 第七十六突擊隊 | 自第七百四十一號集艇(横)至第七百四十六號集艇(横) |
| 第七十七突擊隊 | 自第七百四十七號集艇(横)至第七百五十二號集艇(横) |
| 第七十八突擊隊 | 自第七百五十三號集艇(横)至第七百五十八號集艇(横) |
| 第七十九突擊隊 | 自第七百五十九號集艇(横)至第七百六十四號集艇(横) |
| 第八十突擊隊 | 自第七百六十五號集艇(横)至第七百七十號集艇(横) |
| 第八十一突擊隊 | 自第七百七十一號集艇(横)至第七百七十六號集艇(横) |
| 第八十二突擊隊 | 自第七百七十七號集艇(横)至第七百八十二號集艇(横) |
| 第八十三突擊隊 | 自第七百八十三號集艇(横)至第七百八十八號集艇(横) |
| 第八十四突擊隊 | 自第七百八十九號集艇(横)至第七百九十四號集艇(横) |
| 第八十五突擊隊 | 自第七百九十五號集艇(横)至第七百一百號集艇(横) |
| 第八十六突擊隊 | 自第七百一十一號集艇(横)至第七百一十六號集艇(横) |
| 第八十七突擊隊 | 自第七百一十七號集艇(横)至第七百二十二號集艇(横) |
| 第八十八突擊隊 | 自第七百二十三號集艇(横)至第七百二十八號集艇(横) |
| 第八十九突擊隊 | 自第七百二十九號集艇(横)至第七百三十四號集艇(横) |
| 第九十突擊隊 | 自第七百三十五號集艇(横)至第七百四十號集艇(横) |
| 第九十一突擊隊 | 自第七百四十一號集艇(横)至第七百四十六號集艇(横) |
| 第九十二突擊隊 | 自第七百四十七號集艇(横)至第七百五十二號集艇(横) |
| 第九十三突擊隊 | 自第七百五十三號集艇(横)至第七百五十八號集艇(横) |
| 第九十四突擊隊 | 自第七百五十九號集艇(横)至第七百六十四號集艇(横) |
| 第九十五突擊隊 | 自第七百六十五號集艇(横)至第七百七十號集艇(横) |
| 第九十六突擊隊 | 自第七百七十一號集艇(横)至第七百七十六號集艇(横) |
| 第九十七突擊隊 | 自第七百七十七號集艇(横)至第七百八十二號集艇(横) |
| 第九十八突擊隊 | 自第七百八十三號集艇(横)至第七百八十八號集艇(横) |
| 第九十九突擊隊 | 自第七百八十九號集艇(横)至第七百九十四號集艇(横) |
| 第一百突擊隊 | 自第七百九十五號集艇(横)至第八百號集艇(横) |

秘海軍公報 第四九九七號 昭和二十年四月二十八日

四四九

1758

佐世保鎮守府ノ部中 第四海上護衛隊ヲ削リ

南東方面艦隊ノ次ニ 第七艦隊ヲ加フ

(参照) 前記内令ハ戰時編制實施中艦隊等ノ司令部附特務士官以下ノ補充鎮守府ヲ定ムル件ナリ(内令提要卷二、一一頁)

内令第三四六號(軍極祕海軍公報第一二二號(甲配付)ニ掲載)

内令第三四七號

昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

香取航空基地

ヲ

筑波航空基地

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

官房人機密第二七三號

本年四月十五日現在高尾海軍運輸部職員タル者ハ特ニ發令セラ
ルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ基隆海軍運輸部ノ相當職員
ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年四月十五日

海軍大臣

祕海軍公報 第四九九七號 昭和二十年四月二十八日

官房機密第一三八號

海軍軍需部ヨリ遠隔ノ地ニ在ル陸上部隊ニ於テ要スル半成コー
クス、カーバイト、木炭及木炭ノ製造原料タル薪ハ之ヲ現地ニ
於テ直買スルコトヲ得之方處理ニ關シテハ昭和十九年軍需第二
一五號ニ準ズルモノトス

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

○通牒

軍務一機密第二五〇號

昭和二十年四月二十四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

蓄電池取扱ニ關スル件申進

今破達第七九號ヲ以テ海軍機關教範中蓄電池取扱法一部改正相
成候處之ガ取扱上水素「ガス」含有量限度ヲ容積ニテ充電中百
分ノ三其ノ他ノ場合百分ノ六トセラレタルハ潜水艦ノ熱地海面
作戦行動中長時間無音潜航シ餘儀ナクセラレル場合等ニ於ケル
發生「ガス」鬱積ノ實情ニ即シ規定セラレタルモノニ有之蓄電
池遺修ニ關シ其ノ規格ヲ下ガ或ハ不備ノ蓄電池ヲ以テ忍ブ等ノ
趣旨ニ非ザルニ付關係各部ハ事故防止、裝備蓄電池性能底下防
止等ニ關シ遺憾ナキ様取計相成度

四五二

1760

航本機密第三二七七號

昭和二十年四月二十六日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

兵器製造並ニ購買通牒件名番號ノ件通知

首題ノ件昭和二十年四月一日以降左記ノ通實施セラルルニ付了知相成度

記

| 件名番號 | 事項 | 記 |
|-------------|------------------|----------|
| 兵註空二第一ノ何號 | 機體並ニ其ノ關聯兵器 | 第二部第一課主務 |
| 兵註空二機密第一ノ何號 | 發動機、プロペラ並ニ其ノ關聯兵器 | 第二部第二課主務 |
| 兵註空二第二ノ何號 | 射擊、火工兵器並ニ其ノ關聯兵器 | 第三部第二課主務 |
| 兵註空三機密第二ノ何號 | 爆擊、化學兵器並ニ其ノ關聯兵器 | 第三部第三課主務 |
| 兵註空三第三ノ何號 | 雷擊兵器並ニ其ノ關聯兵器 | 第四部第一課主務 |
| 兵註空四第一ノ何號 | 地雷並ニ其ノ關聯兵器 | 第四部第二課主務 |

| | | |
|-------------|-----------------|----------|
| 兵註空五第二ノ何號 | 無線兵器並ニ其ノ關聯兵器 | 第五部第二課主務 |
| 兵註空五機密第二ノ何號 | 電氣兵器並ニ其ノ關聯兵器 | 第五部第三課主務 |
| 兵註空五第三ノ何號 | 計器、磁探並ニ其ノ關聯兵器 | 第六部第二課主務 |
| 兵註空六第二ノ何號 | 光學、寫真並ニ其ノ關聯兵器 | 第六部第三課主務 |
| 兵註空六機密第二ノ何號 | 發着、基地兵器並ニ其ノ關聯兵器 | 第七部第一課主務 |
| 兵註空七第一ノ何號 | 車輛並ニ其ノ關聯兵器 | 第七部第二課主務 |

○感 狀

感 狀

横須賀鎮守府硫黃島陸上防備部隊
第三航空艦隊東第二空襲部隊

右ハ海軍少將市丸利之助指揮ノトニ硫黃島ヲ基地トシテ熾烈ナル敵ノ砲爆擊ニ抗シ中部太平洋方面就中「マリヤナ」方面ニ對スル敵航空擊滅作戦ニ從事シ敵B29其ノ基地ニ於テ擊摧シ之ガ本土空襲ヲ抑制スルト共ニ所在陸軍部隊ト協同シ硫黃島ノ防備

強化ニ邁進セリ

昭和二十年二月十九日空母十數隻ヲ基幹トスル敵艦隊ノ支援下ニ敵攻略部隊上陸スルヤ所在陸軍部隊ト渾然一休トナリ我ニ數倍スル敵ヲ敢然トシテ邀撃シ悽烈言語ニ絶スル敵ノ砲銃爆ニ曝サレツツ連日晝夜ニ亘ル猛反撃ヲ敢行シ彈藥盡クルヤ肉彈突撃ニ轉ジ一死十殺以テ敵ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ數次ニ亘ル敵増援兵力モ之方戦力ノ大半ヲ喪失セシメ今尙同島ノ北半ヲ確保シ然トシテ皇土護持ノ嵩高ナル犠牲の信念ニ徹シ有ユル困難ヲ克服シテ勇戰敢闘シツツアルハ其ノ武功拔群ナリ
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年三月七日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○ 雜 談

軍極秘内令提要追録第九號(三月十五日現在)四月二十一日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

(海 軍 省 副 官)

○有線電話(秘話装置)ニ關スル件

本府海軍省開秘話装置完成致候條自今本府有線電話通信規程第十四條ニ依リ使用相成度
追テ本電話使用ノ際ハ警備府交換ヲシテ海軍省一番線ニ接続

セシメラレ度

(大 湊 警 備 府)

本船第二氷川丸ト命名以來氷川丸ト誤謬サレ易シ本船宛通信連絡ニ關シテハ氷川丸ト混同セザル様特ニ御注意相成度
(特設病院船第二氷川丸)

○事務所撤去

| 事 務 所 名 | 撤去月日 | 記 事 |
|-------------|------|-----|
| 海防艦波太艦裝具事務所 | 四月七日 | |
| 驅逐艦夏月艦裝具事務所 | 四月八日 | |

○大湊ニ轉勤ノ際家族移轉ニ關スル件

大湊町及隣接町村ハ管下各部隊隨ノ擴充ニ伴ヒ住宅極度ニ拂底シ居ル狀況ニ付自今當方面ニ轉勤ノ際ハ豫メ轉勤先ニ連絡官宿舎決定ノ上家族移轉ノコトトセラレ度
(大 湊 警 備 府)

○正誤

四月五日附秘海軍公報第四九七六號令達關海軍戰時特例給與規則中改正第二條ノ四第三號中「三十回」ハ「二十五回」ノ、四月十八日附同第四九八八號令達關海軍應徵船員給與規則第八條及第二十六條中「應徵船員」ノ下ニ「海軍ニ配屬セラレタル者ニ限ル」ヲ脱ス同第二表中「沿岸區域」ハ「沿海區域」ノ、同

秘海軍公報 第四九九七號 昭和二十年四月二十八日

第六表備考第二號中「在リテ一食ニ付」ハ「在リテハ一食ニ付」ノ孰モ誤

○本日軍極秘海軍公報第一二三號（乙配付）發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞舞各海軍人事部、
吳海軍工廠、關係各警備隊、第十一、川棚各突撃隊、關係
各學校

四五四

1763